

青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 青森陸奥湾「うみゼミ」プロジェクト2019

実施期間：2019年9月22日（日）～2020年3月15日（日）



むつ湾クリーンアッププロジェクト活動発表会2019との共催

【事業の内容・目的】

1. むつ湾クリーンアッププロジェクト活動発表会2019との共催
※（一部催事への海洋教育プログラムの提供及び開催）
 - ①海をテーマにした賑わいづくりの事業に共催し、広く一般市民に対して海洋教育プログラムを提供、実施する。
 - ②「海の学び」の重要性と必要性を理解する博物館ならではの視点から、自らが手本となって海洋教育プログラムを実践することで、賑わい事業に携わる他の機関・団体に対して「海洋教育」の重要性、必要性を示す。
2. 「海の学び」スキルアップ講習会
 - ①指導者向け「学び要素」のスキルアップの機会とする。
 - ②「うみゼミ」スタッフに対する「海洋教育」及び「海の学び」活動の基本知識を習得する場となる。
3. むつ湾「うみの生きものテキスト—補助教材—」＜プロトタイプ＞の制作
 - ①海洋教育の専門家による指導、監修により、地域の「学び活動」に役立つ資料の制作を目標に準備する。
 - ②駅前ビーチの造成を機に、地域の学校教育における「海の学び」の導入へのきっかけツールとしたい。
4. その他
 - ・地域を代表する「海をテーマにした文化交流施設 八甲田丸」の新たな役割として、人、モノ、情報が集まる海をテーマにした情報発信拠点化を目指す。

活動の様子

1. むつ湾クリーンアッププロジェクト活動発表会2019との共催

【開催日時】①2019年9月22日（日）13:00～16:00

②2019年9月28日（土）～11月19日（火）

【開催場所】①ねぶたの家「ワ・ラッセ」他

②青函連絡船「八甲田丸」

【参加者数】10,584人（内訳①～③10,554人、④30人）

【活動内容・目的】

①むつ湾の絵コンクール2019と作品展示会

対象：幼児～小学校

応募締切：令和元年8月30日（金）

応募数：128点

作品表彰：ねぶたの家「ワ・ラッセ」（令和元年9月22日）

作品展示：ねぶたの家「ワ・ラッセ」研修室（令和元年9月22日）

青函連絡船「八甲田丸」多目的小ホール（9月28日～11月19日）

内容：地域の幼稚園、小学校との連携により、海をテーマにした絵画コンクールと作品展示会を開催。（募集、展示、表彰、展示会）

②上映会「アマモのおはなし」

日付：令和元年9月22日

場所：ねぶたの家「ワ・ラッセ」イベントホール

内容：上映するDVDは、「学びミュージアムサポート」事業成果物である副教材を活用。（平成30年度プログラム2対象事業成果物）

③むつ湾環境体験会開催写真展示

開催日：令和元年9月22日

場所：ねぶたの家「ワ・ラッセ」西の広場

内容：今年度、むつ湾広域連携協議会が開催した「海と環境」をテーマにした「むつ湾環境体験会」の活動内容を写真パネル形式で紹介。
（「むつ湾環境体験会」は、旧「うみべん」である）

④シーカヤック体験会

開催日：令和元年9月22日

場所：「ワ・ラッセ」前沿岸（駅前干潟）

内容：八甲田丸を拠点に活動する「あおもりみなとクラブ」によるシーカヤック体験会を開催。



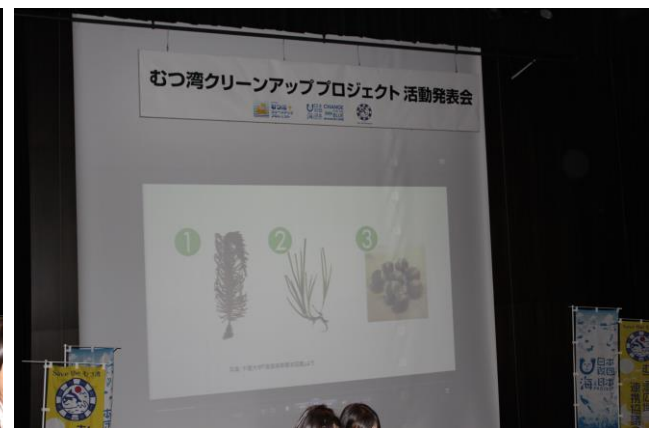
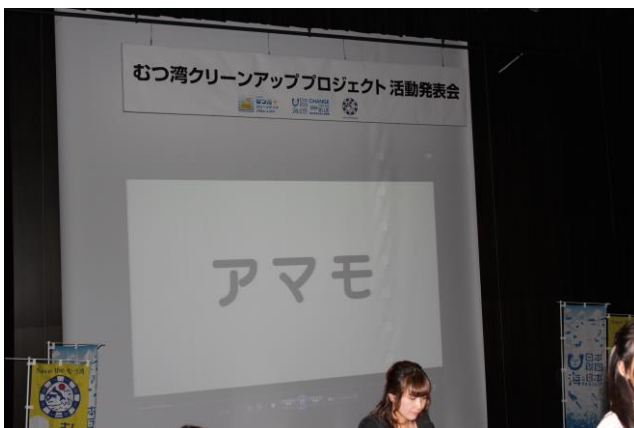
むつ湾絵画コンクール作品展示（ねぶたの家ワ・ラッセ）



むつ湾絵画コンクール作品展示（青函連絡船「八甲田丸」）

①むつ湾絵画コンクールと作品展示

- 普段、海に接することが少ない子ども達に「絵画」を通して「海」との接点を創出することで、地域の次世代とその家族に対して海に対する興味、関心を高める機会となる。
- 多感な幼少年期にこそ海を見つめる経験をしてもらい、これをきっかけとして、海への関心と新たな海の学びへの効果的な導入手段の一つとなる。
- 作品展示会の会期を八甲田丸で開催中の企画展「あおもり駅前ビーチとまちづくり」と連動させることで、企画展見学者の誘致を図り、地域の海の歴史とくらしとの関わりを知り、現状を学び、そこから将来を考える要素を加味した展示内容へ理解を深める効果がある。



上映会「アマモのおはなし」

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

②上映「アマモのおはなし」

- 陸奥湾は下北半島と津軽半島に囲まれ閉鎖的な湾になっており、一度汚染されると簡単には回復できないなどの地域ならではの海の特徴を知ってもらいたい。
- 「アマモ」を通して、海自然环境の現状を知る機会とする。また、地域の海にある環境問題等を知るきっかけとなる。
- 海の環境を守る様々な活動を紹介することで、各種活動への参画を促す。
- 地域の海に生息する生物を通して、過去を知り、今を学び、将来を考える機会を創出することで、海を汚さない意識の醸成につなげる。
- 地元の海に起きている環境問題を認識するとともに、広くは地球全体から見た生物に対する海の役割や、海の大切さを学ぶ機会となる。



むつ湾環境体験会開催写真展示

③むつ湾環境体験会開催写真展示

- 青森市が開催した「むつ湾環境体験会」の日頃からの活動を広く一般に周知することで、地域の海を地域の資源として再認識することの重要性とその自然環境を守ることの大切さを地域市民に対してアピールできる。また、新たな参加者への誘いの場とする。
- 次世代を担う子供たちへの各種活動の紹介を通して、地域にとっての海の役割と魅力を広く一般市民に再認識してもらう機会となる。
- 体験会の活動趣旨を通して、地域の海にある課題と対策の現状を知ってもらうことで、海洋環境の保全と保護への取り組みに対し、理解を深めるとともに、活動への喚起につなげる。
- 海に親しみ、知り、守り、利用する活動の基本には、海とくらしの関係性や、自然環境、地球環境との関係性など、正しい知識や経験を基にした「海の学び」が必要であり、その重要性を地域社会に謳う機会となる。



シーカヤック体験

③シーカヤック体験

- 2021年に完成予定の「駅前ビーチ」の紹介とともに「シーカヤック」を活用しての海に接する機会となり、海での安全教育など誰もが楽しみながら学びを得られる機会となる。
- 八甲田丸を拠点に活動する「あおもりみなとクラブ」による、今後の活動が期待される若い世代の育成の場とする。
- 特に参加者と接する機会が多い本プログラムを通して、今まで学ぶ立場であった「うみゼミ」スタッフ（高校生、大学生）が、単なる補助スタッフから「海の学びの指導者」への一歩としてステップアップを踏み出す舞台とすることで、「海の学び」を心得る若い世代の育成につなげる。

【来館者の声】

- 回答内容A （28歳・女）絵画コンクール
子供たちにむつ湾をテーマにした絵画を描いてもらうことは、海に関心を持ってもらうとても良い手段だなと思う。
- 回答内容B （44歳・女）むつ湾環境会開催写真
子供のころから環境問題を勉強することは、とても良いことだと思う。今般は海のプラスチックごみが魚類に及ぼす影響が話題となっているから。
- 回答内容C （60歳・女）シーカヤック体験
普段体験できない海のレジャーがとても楽しかったです。ありがとうございました。
- 回答内容D （39歳・男）むつ湾環境体験会開催写真の展示
海洋環境を保護することの大切さが解った。
- 回答内容E （40歳・女）絵画コンクール
描いた絵画を見ると、子供たちの鋭い観察力に感心させられた。

2. 「海の学び」スキルアップ講習会2019

【開催日時】 2020年2月29日（土）10：00～12：00

【開催場所】 青函連絡船「八甲田丸」多目的ホール

【参加者数】 17人

【活動内容・目的】

- ①趣旨：海の学び活動のスキルアップを目的に、外部の「海洋教育専門家」を招聘し、海の学びスキルアップ講習会を開催
- ②講師：水井涼太（NPO 法人ディスカバーブルー 代表理事）
横浜国立大学 大学院教育強化推進センター客員准教授
- ③テーマ：「海を活かしたまちづくり～地域の海とそれを取り巻く社会～」



「海の学び」スキルアップ講習会

- ①外部の「海洋教育の専門家」による講習会で得る知識により、運営スタッフ一人ひとりが「海洋教育」をより理解し、意識した運営につながる。（再教育、スキルアップ）
- ②今後における「むつ湾環境体験会」（旧うみべん）への新たなプログラムの作成、提供や活動へ正しい情報と有効的な方法でサポートできる。
- ③「海洋教育」を理解することで、今後地域社会に必要とされる活動や市民の生涯学習に資するテーマを提供できる。
- ④「うみゼミ」に参加する若い世代のスタッフが新たな知見を得ることで更なる活動の展開につなげる。志を共有し協働できる若い世代の人材を育成する。

【今後】

- ⑤講習会で得た知識を基に、運営スタッフの共有する基礎知識とすることで、プログラムの実践の場における学びの要素として導入できる。
- ⑥今回の講習会を機に、今後は自治体若手職員や教員向けの講座に発展させたい。「海の学び」の基礎知識の共有につながる。
- ⑦将来的には地域住民向けの公開講座への展開を目指し、自治体、学校教育関係者を連動した活動に発展させたい。

【来館者の声】

○回答内容A (63歳・女)

駅前ビーチ完成後を見据え海洋教育を意識した運営の必要性を感じた。

○回答内容B (35歳・女)

講師の水井先生が主に活動している神奈川県の手にも青森県とは異なる様々な課題やそれらを解決する地域ならではの方法があることを知ることができました。とても良い勉強になりました。

3. むつ湾「海の生きものテキスト補助教材」のプロトタイプ制作

【開催日時】2020年3月

【開催場所】青函連絡船「八甲田丸」

【活動内容・目的】

- 目的：地域の海を知るための基礎知識が得られるとともに、今後の「海の学び」活動に役立てること目的に制作
- 内容：「海の学び」の基礎知識を取得するのに役立つ、むつ湾に生息する海洋生物を紹介した補助教材を制作
- 教材規格：A5 番 10ページ オールカラー



むつ湾「うみの生きものテキスト（補助教材）」

- ①身近な場所に生息している海洋生物を知ることで、その生物と海洋環境の関係性を学べる。
- ②海洋生物が生息する海と人が生活するときに海の環境がどのように影響を受けるのかを分かりやすく解説することで、海の環境を考えるきっかけをつくる。
- ③地域の海に起きている環境問題を認識するとともに、広くは地球全体における生物にとっての海の持つ役割や、海の大切さを学ぶ。

【事業全体のまとめ】

1. むつ湾クリーンアッププロジェクト活動発表会2019との共催

- ①海をテーマにした賑わいづくりの事業に共催し、プログラムを提供、実施することで、広く一般市民や県民に対して地域の海「むつ湾に親しむ」場を提供できた。
- ②「海に親しむ」ことは、次なる「学び」へ誘う機会となった。
- ③海をテーマにした地域の博物館ならではの視点から、当法人が手本となって「海の学び」活動を実践することで、関連関連団体に対して学び要素の重要性、必要性を周知できた。

2. 「海の学び」スキルアップ講習会2019

- ①指導者向け「学び要素」のスキルアップの機会となった。
- ②「うみゼミ」スタッフに対する「海洋教育」及び「海の学び」活動の基本知識を習得する場となった。

3. むつ湾「うみの生きものテキスト—補助教材—」<プロトタイプ>の制作

- ①駅前ビーチの造成を機に、地域の学校教育における「海の学び」の導入へのきっかけツールとしたい。

4. その他

「八甲田丸」の新たな役割として、人・もの・情報が集まる海をテーマにした情報発信拠点化を目指すとともに、地域社会における新たな人々の交流拠点の設置に向けた機運の醸成につなげることができた。

※例：渚の交番（日本財団）等

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. NPO 法人あおもり若者プロジェクトクリエイティブ	「海の学び」スキルアップ講習会への参加
2. 青森県（港湾空港課、青森港管理所）	駅前ビーチ（干潟）事業に係る情報提供
3. むつ湾広域連携協議会（むつ湾沿岸8市町村）	「むつ湾環境体験会」の活動写真の提供及び展示
4. 青森県営浅虫水族館	むつ湾「うみの生きものテキスト（補助教材）」の制作協力

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. なし	
2.	
3.	
4.	
5.	

以上